

2017 年度事業報告書

2017 年 9 月 1 日 ～ 2018 年 8 月 31 日

特定非営利活動法人 Child First Lab.

1. 事業の成果

2017 年度は引き続き産業技術総合研究所人工知能研究センターと連携し、情報技術開発事業における子ども虐待アセスメントアプリの開発を進めた。来年度には自治体での試用と初期バージョンのリリースを予定している。また、同アプリのプラットフォームを活用し、周辺他領域においても専門職の判断補助と業務効率化によって負担を軽減し、多角的に子どもの安全に寄与するため、生活保護ケースワーカーの業務負担軽減のための ICT 活用に関する調査研究を新たに開始した。その他、思いがけない妊娠やデート DV 予防のための男子学生向け性教育動画の制作、効果的な虐待対応のための多職種連携講座の企画等、次年度に向けた準備を進めた一年となった。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

【子育て・子ども虐待についての情報技術開発事業】

①子ども虐待アセスメントアプリの開発

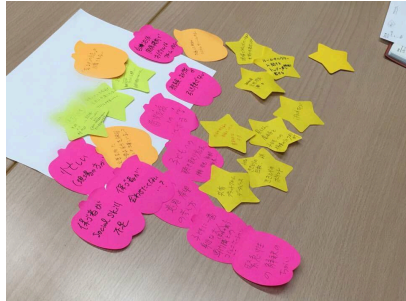
国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）人工知能研究センターと共同研究契約を結び、子ども虐待のリスクをアセスメントしより良い対応を提案する人工知能（AI）及びタブレットアプリの開発を進めた。産総研では初期調査項目や経過記録を入力したものをそのままデータベースにつなぎ込めるアプリや、そのデータベースを活用しリアルタイムに再発率の予測シミュレーション、リスクの自動分類、何をしたら良いかのリコmendを行う推論エンジンを開発している。

当 NPO では現場のナレッジを高める現場支援ガイドの作成を進めた。虐待を受けていることが疑われる児童と対応する際の言葉かけの仕方、適切な質問の内容などを、人工知能によるシミュレーション結果と合わせて表示することで、現場で判断する際に有用な知見を提供できるように開発を進めている。

②支援者との意見交換会実施

2017 年 9 月 10 日、東京都江東区の東京国際交流館にて、クラウドファンディング出資者を対象に、アプリ開発と現在の児童虐待防止対策に関する意見交換会を実施した。グループ

ワークにて現場における子ども支援の課題、解決方法、具体的な事例について意見交換を行い、アプリに対する期待や要望などを受けつけた。これらを現在開発中のアプリに反映させた。



③社会起業家育成プログラム「SUSANOO」への参加

NPO 法人 ETIC.主催の社会起業家向けアクセラレーションプログラム「SUSANOO（スサノオ）」のメンバーに選抜され、2017年9月～12月、計9回のセミナーやプレゼンイベントに参加した。将来的にどのようなビジネスモデルを構築するかという方法論だけでなく、このアプリ開発事業を通して成し遂げたいことは何か、子ども虐待を解決するというミッションに対し本事業をどのように位置づけるか、というビジョンや社会的意義について深く掘り下げ検討した。

最終的にブラッシュアップされた事業をプレゼンする12月16日の「SUSANOO FES C×C 2017」では、総勢250名の聴衆の前で高岡がピッチを行い、今後につながるフィードバックや様々な職種の方とのつながりを得た。



実施期間	<ul style="list-style-type: none"> ①2017年9月～2018年8月 ②2017年9月10日 ③2017年9月～12月
実施場所	①産業技術総合研究所

	②東京国際交流館プラザ平成 ③NPO 法人 ETIC.
従事者の人数	6名
受益対象者の範囲	①子ども虐待被害者、及び被虐待児と接する可能性のある職業につく人々（不特定多数） ②子ども虐待支援者等 3名 ③子ども虐待被害者、及び被虐待児と接する可能性のある職業につく人々（不特定多数）
事業費の金額	106,911 円

【子育て・子ども虐待についての啓発事業】

①日本子ども虐待防止学会における活動報告

第 23 回日本子ども虐待防止学会学術集会ちば大会にて、口頭発表を行った。地域のソーシャル・キャピタル（人間関係資本）に虐待予防効果があるか、国内外の学術文献を系統的に収集・抽出し、内容を要約する「システムティック・レビュー」の進捗について報告、子どもの虐待防止に向けて、地域レベルの様々な資源を活用するのに科学的根拠を積み重ねる必要性を訴えた。団体ブースでは動画上映やチラシ配布によって活動の PR を実施した。



②男子学生に対する性教育動画の制作開始

思いがけない妊娠時の対応に関する動画「妊娠…？ どうしよう」に対するフィードバックから、その前段階である「妊娠しない・させない」ための情報が必要とされていることが明らかとなった。性に関する玉石混合の情報がインターネット上に氾濫する一方、教育現場では必要な性教育が十分に行われておらず、正確でわかりやすい情報を若年層に届ける必要がある。特に、当事者となりうる女性と比べると男性は能動的に情報収集する動機づけも低

く、正しい知識に接する機会が少なくなりやすい。このような問題意識から、男子学生を対象に妊娠・避妊や恋愛関係・パートナーシップについて啓発する動画の制作を開始した。今年度はエビデンスの収集とプロットの作成を行い、次年度に完成・公開予定である。

実施期間	①2017年12月2日・3日 ②2018年4月～8月
実施場所	①幕張メッセ国際会議場 ②法人事務局
従事者の人数	6名
受益対象者の範囲	①子ども虐待対策に携わる専門職、研究者（不特定多数） ②男子中学生・高校生（不特定多数）
事業費の金額	3,730円

【子育て・子ども虐待についての情報集約化事業】

①「生活保護世帯に対するケースワーク業務負担軽減のための効果的な人工知能（AI）アプリの活用に関する調査研究事業」開始

情報技術開発事業で開発中のAI及びアプリを他領域でも活用し、多層的に子どもの福祉に寄与するため、現状と今後の導入可能性に関する調査研究を開始した。今回は子どもの安心・安全とも関連の深い生活保護世帯に対するケースワークへの援用をテーマとし、文献調査、自治体職員に対するインタビュー調査、デモアプリ開発及びその使用感に関する調査を予定している。本事業は厚生労働省平成30年度社会福祉推進事業における国庫補助対象として採択された。

実施期間	2018年8月
実施場所	法人事務局
従事者の人数	6名
事業費の金額	0円

【子育て支援に関する多機関連携支援事業】

①他職種連携教育に関する勉強会開催の準備

虐待対応における多職種連携を促進するために、医療・福祉・司法などの分野を超えた若手専門職での勉強会の実施に向けて、オンライン上で 2018 年 4 月より企画準備を開始した。内容としては、多職種連携の必要性、諸外国の取り組み、自職種や他職種が感じる支援困難感への気づきなどを取り入れる予定である。勉強会は 2018 年 9 月に都内で約 15 名程度で実施予定であり、その後定期的にオンラインでの勉強会の実施を予定している。

実施期間	2018 年 4 - 8 月
実施場所	オンライン
従事者の人数	2 名
事業費の金額	0 円

【子育て支援者のための研修・交流事業】

当年度は未実施

(2) その他の事業

【情報コンテンツの販売（計画）事業】

① Web サイト管理受託

一般社団法人「全国妊娠 SOS ネットワーク」の Web サイトの管理委託契約を更新し、今年度も受託した。研修・講演会等の情報を随時更新している。

実施期間	2017 年 9 月～2018 年 8 月
実施場所	法人事務局
従事者の人数	2 名
事業費の金額	0 円

② 動画データの販売

啓発動画「妊娠…？どうしよう」「性暴力を受けている子どもたちへ」のデータを啓発活動教材として他団体に販売した。当年度の販売件数は 2 件である。

実施期間	2017 年 9 月～2018 年 8 月
------	-----------------------

実施場所	法人事務局
従事者の人数	1名
事業費の金額	0円

【子ども虐待に関する研究（受託）事業】

①虐待データベース構築に関する調査研究への協力

恩賜財団母子愛育会による「児童虐待の地域及び国際比較のためのデータベース構築に関する調査研究」（厚生労働省 平成 29 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業）において、一部の国外資料の翻訳作業を受託した。調査では海外の先行事例をもとに、データベース構築に必要な調査項目や国内の課題を検討している。

なお、報告書は母子愛育会のサイトにおいて公開されている。

<http://www.boshiaiikukai.jp/img/research/houkoku-kodomokosodate-29.pdf>

実施期間	2017年12月～2018年1月
実施場所	法人事務局
従事者の人数	2名
事業費の金額	0円

以上